

ひなを楽しむ

- 旧家のひな飾り -

平成31年 2月9日(土)～4月7日(日)

享保雛や古今雛など、江戸時代以降の町屋で飾られたさまざまなお雛さまを紹介します。これらの雛は、尾張徳川家に伝えられた、大名家ならではの豪華な雛とは趣きが異なり、素朴ななかに身近な親しみやすさを感じられます。

江戸時代から昭和にいたるまでの多くの人々が“桃の節供”に飾ってきたさまざまな雛人形・雛道具をお楽しみください。

※所蔵者の表記がない作品は全て徳川美術館蔵、「蓬左」は名古屋市蓬左文庫蔵

名 称	時代	世紀	所蔵者
-----	----	----	-----

町の雛まつり

江戸～明治時代のひな

・ 享保雛	志賀直哉旧蔵	江戸	18-19	個人蔵
・ 享保雛		江戸	19	
・ 古今雛		江戸-明治	19	
・ 古今雛		江戸-明治	19	
・ 古今雛		江戸-明治	19	
・ 古今雛	鈴木綾子氏寄贈	江戸-明治	19	
・ 古今雛 二対	川合家寄贈	江戸-明治	19	

明治・大正・昭和時代のひな

・ 御殿雛飾り	志村家寄贈	明治	19	
・ 御殿雛飾り	安場家寄贈	明治43年<1910>		
・ 御殿雛飾り	小見山家・柴田家寄贈	明治-昭和	20	
・ 内裏雛飾り	近藤家寄贈	大正	20	
・ 御殿雛飾り	三上家寄贈	昭和4年<1929>		
・ 内裏雛飾り	越智恵津子氏寄贈	昭和13年<1938>		
・ 内裏雛飾り	横井家寄贈	昭和30年代<1955-64>		
・ 内裏雛飾り	中村豊子氏寄贈	昭和	20	

名 称	時代	世紀	所蔵者
-----	----	----	-----

ひなの歴史

・ 日本歳時記 4冊の内	貝原好古著	江戸 貞享5年<1688>	蓬左
・ 女訓絵入雛遊之記 上	西川祐信画	江戸 寛延2年<1749>	蓬左
・ 絵本倭文庫		江戸 享保19～安永5年<1734～76>	
・ 骨董集	山東京伝著	江戸 19	蓬左

郷土玩具のなかのひな —徳川義親コレクション—

		大正-昭和	20	個人蔵
・ 土雛	埼玉県鴻巣市	・ 裸雛	住吉大社(大阪市)授与品	
・ 七夕雛	長野県	・ 流雛	和歌山県粉河	
・ ヒシ雛	京都市	・ 守雛	加太淡嶋神社(和歌山市) 授与品	
・ 瓢箪雛	京都市	・ 竹雛	熊本県	
・ 板雛	京都市鞍馬	・ 糸雛	鹿児島県	
・ 豆雛	大阪府	・ 流雛	鳥取県	
・ 銀杏雛	大阪府			

上流層で愛されたひな

・ 有職雛飾り	吉田家寄贈	江戸 天保8年<1837>	
・ 御所人形	某家寄贈	江戸 18-19	
・ 御所人形 各種	西光庵寄贈	江戸-明治 19	

【特別公開】

・ 次郎左衛門雛	江戸	個人蔵
----------	----	-----

じろうざ えもんひな 次郎左衛門雛とは

次郎左衛門雛は、京都の人形師・雛屋次郎左衛門が製作したといわれます。まるで物語絵に出てくる貴族のような丸い顔に、小さな口と細い目元（引き目）、小さな鼻（^{かぎばな}鉤鼻）が特徴で、江戸時代中期頃に登場したといわれています。古雅な面差しがとりわけ上流層の間で好まれ、公家や大名家、^{もんぜきあまでら}門跡尼寺（皇族・貴族の子女が入寺する寺院）に伝わる作品も知られています。

お雛さま 豆知識

雛の歴史

雛祭りは、古代中国において3月の最初の巳の日に、水辺に出て穢れや災いを祓う行事が起源と考えられています。この行事は、古く7世紀にはわが国にもたらされ、上巳の節供として3月3日に行われるようになりました。平安時代には宮廷の年中行事として定着し、この日に曲水の宴を催したり、桃酒を飲んだりしました。

また、自分の罪や穢れを、息を吹きかけたり身肌にすりつけて人形に託し、水辺に流す風習がわが国の民俗信仰として古代からありました。これとは別に『源氏物語』をはじめとする王朝時代の文学作品の中では、幼い子どもたちの遊びに用いられた人形を「ひいな」と呼んでいます。これらの風習がいつの頃から始まったのかは明らかではありませんが、3月3日の雛祭りの源流となったと考えられています。

江戸時代になると、次第に雛祭りは盛んになっていきました。今日みられるような雛祭りの形式は、江戸時代の初め頃に形成されたと考えられています。

有職雛

「有職」とは、公家社会のさまざまな決まり事を指す言葉です。「有職雛」は、家柄や季節などによって異なる公家の着る装束を正しく考証して作られた雛人形をいいます。

有職雛は、男雛の着ている装束の種類によって、「束帯雛」「直衣雛」「狩衣雛」とも呼ばれます。束帯は公的な儀式の際に着用される礼服、直衣は上級の公家のちよっと晴れがましい平常服、狩衣はカジュアルな装いです。それにあわせて、女雛の装束も正装の十二単や日常の袷などが用いられています。

男雛と女雛の並べ方

伝統的には男雛は向かって右、女雛は向かって左に飾られました。現在の男雛が左、女雛が右とする飾り付けは、昭和3年(1928)に昭和天皇の即位式の時の御真影を参考にして、東京の人形業界がお雛さまの飾り位置を置き換えたことから普及したと言われています。皇室が明治時代に導入した西洋のマナーに基づいていると考えられます。

五人囃子

五人囃子には「雅楽」と「能楽」の二通りがあります。雅楽の五人囃子では、向かって右から鞆鼓・太鼓・笙・箏・笛(あるいは鞆鼓・太鼓・鉦鼓・笙・箏)が一般的です。七人囃子・八人囃子などの場合も見受けられます。能楽では、謡・笛(能管)・小鼓・大鼓・太鼓の順で並べられます。

御所人形

桐材をベースに胡粉を塗り重ね磨き上げて仕上げられた人形です。子どもの穢れのない表情が表されています。災いを祓い、福を招く意味合いが込められています。

犬張子

犬張子は人に似せた顔をした犬をかたどった一對の置物で、犬篋とも呼ばれます。子どもが誕生すると、その無事の成長を祈って、天児と呼ばれる穢れや災いを祓う意味合いの人形とともに枕元に置かれました。また婚礼の際にも持参され、生涯大切にされました。